

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170400182
法人名	社会福祉法人 境港福祉会
事業所名	グループホーム 夕日ヶ丘
所在地	鳥取県境港市夕日ヶ丘2丁目100番地 (電話)0859-47-2277

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年8月4日	評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(21年7月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 13.5

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	21,120 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 1380 円			

(4)利用者の概要(7月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.05 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鳥取県済生会境港総合病院、小徳歯科クリニック、厚生会米子中海病院、阿曾皮膚科、はまはし眼科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

境港市の新興住宅地の一角に建てられた2ユニットのグループホームは今年で開設5年目をむかえます。木造の匂いが漂う清掃の行き届いたホームで、中に入ると懐かしさでほっとするような雰囲気があります。職員の離職も少なく利用者や家族と馴染みの関係が作られています。開設当時、近隣の住宅も数軒だったものの、少しずつ増えつつあります。自治会も未だない中で地域の集会所に開放する等、地域に開かれたホームとして運営者、管理者、職員一丸となって努力されている姿勢が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題とされていた地域密着型サービスとしての理念は、職員全員で作らあげ改善されています。職員研修の年間計画も作成されていますが、災害時の備蓄は市の災害時における体制等について話し合いがされているところですが、前向きに考えておられます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部のサービス評価を実施するにあたり、職員全員で自己評価に取り組みその結果を踏まえ、事業所の職員で構成されている外部評価委員会でもまとめられています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的で開催されています。メンバーの市職員からの情報を共有しあったり、事業所から利用者の状況や評価の結果について報告話し合いがされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発行する広報誌に担当者から一人ひとりの健康状態や日々の様子が家族に報告されています。必要時の健康状態等は電話で報告されています。職員は家族会や面会時に意見が言いやすいように雰囲気や言葉がけに配慮しています。苦情には速やかに検討し改善策を報告すると共に運営へ反映されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新興住宅地の中に事業所はあり、住宅は増えつつあるが若い世代が多くグループホームへの関心も薄いため、日常生活における地域との交流は困難な状況であり、まだ地域の集会所もない状況の中、事業所自ら場所を提供したり、AED設置の案内をはじめ、行事の案内や散歩時の挨拶、保育園交流、子ども会主催の御輿、ボランティア受け入れ等地域に開かれた事業所として交流に努めておられます。今後もさらに地域との関係づくり努められることを期待します。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの事業所の理念とは別に地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を全職員で作成し、家族や地域の人々に理解していただくよう玄関に掲示されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や一年間の改善目標を毎朝復唱し、理念の実践にむけて日々取り組んでいることが、管理者や当日の職員のヒアリングでも確認されました。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新興住宅地に事業所はあり、周囲の住宅は増えつつあるが自治会はこれから出来るところである。また地域には公民館がない為、自治会の集會等に施設を開放したり、行事の案内を回覧板で回していただき参加者も年々増えてきています。正月には子ども会主催のこども神輿が寄ってくださるなど、地域の人々との交流に努めておられます。	○	新興住宅地で住宅はまだ少なく、地域活動の参加や交流は課題も多々あると思いますが、事業所の出来る役割や活動を担う努力を、これからも地域と連携を保ちながら続けられることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、職員全員で自己評価を行い、外部評価での改善課題についても具体的に改善策を話し合い取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度の割合で開催されています。会議では利用者やサービスの状況、外部評価の結果や改善にむけての取り組みが報告されています。民生委員からの地域高齢者についての相談も話し合いがされていますが、推進委員からの意見は全般に少ない状況です。		運営推進会議では、事業所からの報告にとどまらず、話し合いを通じて会議のメンバーからも意見をもらいサービスの向上に活かされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも施設長を中心に市役所に出向き担当者と話し合いがされていますが、市からのアプローチはあまりされていないのが現状です。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の広報誌で職員の異動や行事、利用者の暮らしぶりをはじめ、担当者が個人の様子や健康状態を記入し定期的に家族に報告されています。その他に面会時や健康状態に応じて随時個々に電話等で利用者の様子が報告されています。		広報誌に掲載している利用者の写真は、「家族に了解を得ている」ことが書かれており、プライバシーに配慮されていることが外部の人にも分かりやすいと思われます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情が言いやすいように、来訪時の雰囲気づくりや意見箱の設置、外部の相談窓口について契約時に説明されています。苦情が出されたときは直ちに検討会がされ、その結果について、家族に説明すると共に運営やケアに反映されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限度におさえ、代わる場合は利用者のダメージを防ぐ配慮がされています。両棟の職員が利用者と一緒に馴染みの関係を築けるよう一日おきに両棟の勤務が行なわれるよう調整がされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質は職員の質によって成り立っていることを運営者はよく理解してをり、管理者や職員を段階に応じて育成する為の法人内外の研修がされています。働きながら資格をとる為の勤務の調整や、昨年出来ていなかった年間の研修計画の作成もされていました。また事業所内の会議の充実や全員参加できるように時間帯の見直しがされています。	○	研修後の伝達報告会を実施し全職員が内容を共有すると共に、ケアに活かされることを期待します。また研修書類の整理も必要と思われます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互交換研修を年1回実施し研修内容も写真や沢山取り入れ整理されています。研修後他のグループホームがされている夕食の機会を設けるなど、形式的研修に終わることなくケアに活かされています。		今後も他ホームのアイデアやケアを日常的なサービスに活かされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、本人、家族の見学や体験宿泊を通し、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐徐に馴染めるよう相談しながら支援されています。また家庭を訪問し見取り図を作成し、ホームの居室内のベット、ポータブル等の置き場をできるだけ家庭に近いように工夫されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であると職員は敬い、介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築かれていることが、調査当日の観察や聞き取りでも確認されました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話を通じ思いや意向の把握に努めておられます。アセスメントシートの記入、ミーティング等で職員間の共有は図られています。思いや意向の把握に困難な方は家族や本人本位に検討されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の思いや要望を聞き、アセスメントを含め職員や関係者で意見交換やモニタリング、カンファレンスが行なわれ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成されています。		様式も書きやすいように従来の様式を見直し新しくなっていました。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを基本とされていますが、様態の変化がみられたときは期間内でも本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画が作成されています。	○	介護計画の見直しの根拠となる介護計画の個別記録のあり方について職員間で話し合い、モニタリングに記録が活かされることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に自家用車のない利用者が通院された場合、病院に迎えに行き事業所に連れて帰ったり、買物支援など本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の他機能性を活かした柔軟な支援がされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を大切に、納得の得られた方は事業所の協力医に、また従来のかかりつけ医と情報のやりとりをしながら適切な医療を受けられるように支援されています。診察結果も共有もされています。2週間に1度の往診があり利用者や家族の安心感が得られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期をむかえた場合、家族や本人の思いを聞き看護師、かかりつけ医等と状況にあわせ対応されています。家族は医療機関での終末期を望まれ今までに事例はありません。		事業所で対応できる範囲について話し合い、方針を家族に説明し職員間で共有されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法の理解につとめ記録の取り扱いも鍵付の棚に管理されています。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように周囲に配慮しながらトイレを誘導をさりげなくされていました。広報誌の掲載する写真は家族の了解がとられています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし	基本的な流れはありますが、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの体調やペースを大切にし、散歩や職員とおしゃべりを楽しんだり、その人らしい暮らしの支援に努めておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
え					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスが隣接されたのを機に食事は一環されて作られるようになり、盛り付け、片付け、食器洗い等を利用者の力を活かしながらされています。職員も同じ食事を摂っておられます。月に1度調理会議があり、利用者の要望を話しあっています。月一度のおやつ作りは継続して行なわれていて利用者も楽しみにしておられます。		おやつ作りを通し、張り合いや自信が喜びや楽しみとなり、心身の力の維持や向上につながっていくと思われまます。食事づくりの機会がない現状の中で、おやつ作りの果たしている役割は大きいと思います。今後も継続と回数を増やされることを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに1日おきに入浴が行われています。一番に入りたい希望者が多いため順番に一番には入れるようにされています。同性介護の配慮や失禁、汗をかいた後のシャワー浴、入浴は上記にとらわれず柔軟に支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握や共に暮らす中で利用者の得意なことや好きなことを見つけ支援しておられます。以前給食関係の仕事をしていた方は身体が不自由ながら率先して食器拭きを、その他に個々の力に応じ洗濯干し、たたみ、献立書き、掃除等しておられ、職員は感謝の言葉を伝え共に張りあいや喜びのある日をすごしておられます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日のように散歩にでかけて花を摘んでかえり食卓に飾ったりして季節を五感に感じていただくような支援がされています。デイサービスの車を利用して外出の機会も少しづつ増えつつあります。		散歩以外の外出回数が増えていくことを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践されています。職員の人数の少ない時間帯に新しく入居され、外出傾向がある方などやむを得ない場合は一時的に鍵をかけることがあります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定し防災訓練を年2回実施し避難方法を身につけておられます。AEDの講習会をおこない地域にAEDの設置の案内がされています。スプリングクレーも今年度中に付く予定です。避難訓練は地域の方を交えてする機会はまだとられていません。	○	運営推進会議を活用して地域に協力の呼びかけ、災害時の備蓄の検討をされることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は個々に記録がとられ一日を通じて確保できるように支援されています。味噌汁が冷たくなったら温め直したり、キザミ食の方にメニューの説明がされていました。水分が確保しやすいように飲み物の種類(コーヒー、紅茶、グリーンティー、ココア、お茶ゼリー)を揃える等きめ細やかに支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を一步入ると木の匂いがぷーんとしてきて爽やかな気分になりました。廊下も明るく所どころに木のベンチが置かれ、食堂は間接照明で優しく感じました。食卓には利用者の家族から届いた季節の花が飾られ、清掃もいき届き、ゆっりした空間で居心地よく暮らしておられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をしながら使い慣れた物をもってきていただくようにされていますが、家族によりバラつきがあります。テレビ、仏壇、炬燵、タンス、畳風の敷物、写真、花が飾られ、居室の入口には暖簾が個々にかけてあり本人が居心地よく過ごせるよう配慮がされています。		